

計画期間  
令和3年度～令和12年度

登別市酪農・肉用牛生産近代化計画書

令和4年1月

北海道登別市

## 目 次

- I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針
- II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標
  - 1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標
  - 2 肉用牛の飼養頭数の目標
- III 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標
  - 1 酪農経営方式
  - 2 肉用牛経営方式
- IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項
  - 1 乳牛
  - 2 肉用牛
- V 国産飼料基盤の強化に関する事項
- VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
  - 1 集送乳の合理化
  - 2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
- VII その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

1 酪農・肉用牛生産の位置づけと展開方向

登別農業の主体は酪農・畜産であり、この農業形態は土壌や気象条件などから特化されたものであるため、草地等飼料基盤に立脚した農業を推進します。畜産農業を取り巻く状況は、国際化の進展の中で輸入牛肉や乳製品との競合をはじめ、近年では国際的な穀物価格の高騰などが、畜産経営に深刻な影響を与えることが予想されます。

そのため、農用地の利用集積を図り自給飼料生産の拡大による安定的な酪農経営の確立、堆肥等の草地への還元による資源循環型農業の推進するとともに、安全・安心な地場産品の生産体制を構築します。

また、農業従事者の高齢化と後継者不足による担い手不足が今後見込まれることから、関係機関・団体等と連携を図りながら、新規就農希望者等へ各種情報の提供等の支援を行うとともに、離農した後の畜産施設の新規就農者へ提供する事で有効活用を図るなど円滑な経営継承を推進します。今後は消費者ニーズに応えた安全で良質な農畜産物の生産と「土、草、牛」が調和し生産要素のバランスがとれたゆとりある酪農・肉用牛経営を確立します。

2 自給飼料基盤に立脚した畜産経営の育成

自給飼料の生産性向上と優良な飼料基盤を確保するために、農地の利用集積を図るとともに牧草優良品種の普及と補助事業を活用した計画的な草地整備改良とあわせて飼料用とうもろこしなど栄養価の高い自給飼料の増産を推進します。また、良質粗飼料の効率的な生産を推進するために、地域の飼料基盤の有効活用により効率的な酪農・畜産経営を確立します。

公共牧場については、育成牛の預託により飼養管理労働が軽減となり、さらには農家段階における飼料費の軽減と自給飼料確保にも資していることから、牧場機能の維持強化を図り利用の促進に努めます。

3 畜産物に係る安全・安心の確保と食育の推進

食品の安全性確保のために、家畜飼養者に対し飼養衛生管理基準に基づく衛生管理の徹底と生産段階での衛生管理手法の普及を進めるとともに、放牧の導入や過度な密飼いを避けるなど家畜の生理に即したストレス負荷のない飼養管理を推進します。

また、ポジティブリスト制度等に沿って、生産段階での農薬や動物用医薬品等の適正使用を徹底するとともに、生産履歴の記帳や記録の管理、衛生的乳質の向上を図るためミルクカー・バルククーラーなど搾乳機器や牛舎環境の巡回点検を実施します。

近年、国内や近隣諸国での口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生を踏まえ、悪性伝染病の侵入防止に向けて、家畜や施設等の消毒の徹底や部外者の立ち入り制限など農場段階における自主的な衛生管理の強化を促進するとともに、畜産農家や関係機関・団体と一体となって侵入防止対策に万全を期すほか、万が一、これらが発生した場合に、その被害を最小限に食い止めるよう防止対策の整備等に努めます。

食育の推進につきましては、農業体験や地場産品の学校給食への活用などにより子供達の食料・農業・農村への理解を深めるため、食の安全や大切さなどを教える取組を進めます。

4 家畜排せつ物の適正管理と利用の促進

家畜排せつ物は地域の貴重な有機質資源であることから、環境に負荷をかけない資源循環型酪農・畜産の確立に向け、自給飼料生産基盤と飼養規模の調和を図りながら、自己経営内や地域での循環利用を基本とし、家畜排せつ物の処理と適正利用のために、小規模農家等については簡易堆肥化施設整備を推進するとともに、家畜排せつ物法の管理基準該当農家に対し農業協同組合や普及センター等との連携のもとに低コストで効率的な家畜ふん尿処理・利用技術の普及・定着に向けた取組を進めます。

また、地域畜産農家で組織する堆肥利用組合が主体となって地域の飼料基盤を有効利用するための活動を進めます。

5 家畜改良の推進及び新技術の開発・普及

乳用牛の改良については、消費者ニーズに対応した牛乳・乳製品の安定供給を目指し、乳量・乳成分の改良に努めるほか、生産コストの低減につながる生産性の向上に向け、泌乳持続性や粗飼料の利用性と繁殖性の向上のための取組を進めます。

肉用牛は産肉能力や繁殖性の向上を基本とした遺伝的能力の改良を進めるため、育種価を活用した繁殖雌牛の指定交配や選抜淘汰による優良雌牛の地域内保留を推進するとともに、飼養管理技術の改善により発育や産肉の高位斉一化と初産月齢の早期化、分娩間隔の短縮を図ります。

また、牧草や飼料用とうもろこしなど飼料作物の優良品種の普及と地域条件に適応した放牧技術の確立を目指し放牧利用の拡大を進めます。

II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標

1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

| 地域名 | 地域の範囲 | 現在（平成30年度） |      |       |               |       | 目標（令和12年度） |      |       |               |       |
|-----|-------|------------|------|-------|---------------|-------|------------|------|-------|---------------|-------|
|     |       | 総頭数        | 成牛頭数 | 経産牛頭数 | 経産牛1頭当たり年間搾乳量 | 生乳生産量 | 総頭数        | 成牛頭数 | 経産牛頭数 | 経産牛1頭当たり年間搾乳量 | 生乳生産量 |
| 登別市 | 全域    | 頭          | 頭    | 頭     | kg            | t     | 頭          | 頭    | 頭     | kg            | t     |
|     |       | 545        | 344  | 344   | 8,755         | 3,012 | 485        | 261  | 261   | 9,884         | 2,580 |

- (注) 1. 成牛とは、24ヶ月齢以上のものをいう。以下、諸表において同じ。  
 2. 生乳生産量は、自家消費量を含め、総搾乳量とする。  
 3. 「目標」欄には、令和12年度の計画数量を、「現在」欄には原則として平成30年度の数量を記入すること。以下、諸表について同じ。

2 肉用牛の飼養頭数の目標

| 地域名 | 地域の範囲 | 現在（平成30年度） |      |       |     |       |      |     |       | 目標（令和12年度） |      |       |     |       |       |     |       |   |   |
|-----|-------|------------|------|-------|-----|-------|------|-----|-------|------------|------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|---|---|
|     |       | 肉用牛総頭数     | 肉専用種 |       |     |       | 乳用種等 |     |       | 肉用牛総頭数     | 肉専用種 |       |     |       | 乳用種等  |     |       |   |   |
|     |       |            | 繁殖雌牛 | 肥育牛   | その他 | 計     | 乳用種  | 交雑種 | 計     |            | 繁殖雌牛 | 肥育牛   | その他 | 計     | 乳用種   | 交雑種 | 計     |   |   |
| 登別市 | 全域    | 頭          | 頭    | 頭     | 頭   | 頭     | 頭    | 頭   | 頭     | 頭          | 頭    | 頭     | 頭   | 頭     | 頭     | 頭   | 頭     | 頭 | 頭 |
|     |       | 2,470      | 378  | 1,057 | 3   | 1,438 | 995  | 37  | 1,032 | 3,977      | 582  | 2,165 | 2   | 2,749 | 1,130 | 98  | 1,228 |   |   |

- (注) 1. 繁殖雌牛とは、繁殖の用に供する全ての雌牛であり、子牛、育成牛を含む。  
 2. 肉専用種その他は、肉専用種総頭数から繁殖雌牛及び肥育牛頭数を減じた頭数で子牛を含む。以下、諸表において同じ。  
 3. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。以下、諸表において同じ。

Ⅲ 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標

1 酪農経営方式  
単一経営

| 方式名<br>(特徴となる取組の概要) | 経営概要 |       |      |          |             | 生産性指標       |            |      |          |                |         |            |             |        |           |       |    |                   |       | 備考    |     |     |
|---------------------|------|-------|------|----------|-------------|-------------|------------|------|----------|----------------|---------|------------|-------------|--------|-----------|-------|----|-------------------|-------|-------|-----|-----|
|                     | 経営形態 | 飼養形態  |      |          |             | 牛           |            | 飼料   |          |                |         |            |             | 人      |           |       |    |                   |       |       |     |     |
|                     |      | 経産牛頭数 | 飼養方式 | 外部化      | 給与方式        | 放牧利用(放牧地面積) | 経産牛1頭当たり乳量 | 更新産次 | 作付体系及び単収 | 作付延べ面積※放牧利用を含む | 外部化(種類) | 購入国産飼料(種類) | 飼料自給率(国産飼料) | 粗飼料給与率 | 経営内堆肥利用割合 | 生産コスト | 労働 |                   | 経営    |       |     |     |
| 円(%)                | hr   | hr    | 万円   | 万円       | 万円          | 万円          | 円(%)       | hr   | hr       | 万円             | 万円      | 万円         | 万円          | 円(%)   | hr        | hr    | 万円 | 万円                | 万円    | 万円    |     |     |
| スタンション<br>40頭       | 家族   | 40    | ST   | 公共牧場ヘルパー | TMR<br>分離給与 | 舎飼          | 8,571      | 4.0  | 混播       | 58             | 個別      | -          | 82          | 80     | 1         | 70    | 82 | 3,1000<br>(1,700) | 3,160 | 2,720 | 440 | 280 |

- (注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。  
 2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。  
 3. (注) 1, 2については、「2肉用牛経営方式」についても同様とする。

単一経営

| 方式名<br>(特徴となる取組の概要) | 経営概要 |       |      |          |             | 生産性指標       |            |      |          |                |         |            |             |        |           |       |    |       |       | 備考    |     |     |
|---------------------|------|-------|------|----------|-------------|-------------|------------|------|----------|----------------|---------|------------|-------------|--------|-----------|-------|----|-------|-------|-------|-----|-----|
|                     | 経営形態 | 飼養形態  |      |          |             | 牛           |            | 飼料   |          |                |         |            |             | 人      |           |       |    |       |       |       |     |     |
|                     |      | 経産牛頭数 | 飼養方式 | 外部化      | 給与方式        | 放牧利用(放牧地面積) | 経産牛1頭当たり乳量 | 更新産次 | 作付体系及び単収 | 作付延べ面積※放牧利用を含む | 外部化(種類) | 購入国産飼料(種類) | 飼料自給率(国産飼料) | 粗飼料給与率 | 経営内堆肥利用割合 | 生産コスト | 労働 |       | 経営    |       |     |     |
| 円(%)                | hr   | hr    | 万円   | 万円       | 万円          | 万円          | 円(%)       | hr   | hr       | 万円             | 万円      | 万円         | 万円          | 円(%)   | hr        | hr    | 万円 | 万円    | 万円    | 万円    |     |     |
| スタンション<br>60頭       | 家族   | 60    | ST   | 公共牧場ヘルパー | TMR<br>分離給与 | 舎飼          | 8,273      | 4.0  | 混播       | 87             | 個別      | -          | 82          | 80     | 1         | 76    | 68 | 3,900 | 4,880 | 4,310 | 570 | 340 |

- (注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。  
 2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。  
 3. (注) 1, 2については、「2肉用牛経営方式」についても同様とする。

2 肉用牛経営方式

(1) 肉専用種繁殖経営

| 方式名<br>(特徴となる取組の概要)     | 経営概要          |                    |            |          |      |               | 生産性指標 |      |      |                     |          |                |         |            |             |        |           |                 |            |                         |             |             | 備考        |           |
|-------------------------|---------------|--------------------|------------|----------|------|---------------|-------|------|------|---------------------|----------|----------------|---------|------------|-------------|--------|-----------|-----------------|------------|-------------------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
|                         | 経営形態          | 飼養形態               |            |          |      | 牛             |       |      |      | 飼料                  |          |                |         |            |             | 人      |           |                 |            |                         |             |             |           |           |
|                         |               | 飼養頭数               | 飼養方式       | 外部化      | 給与方式 | 放牧利用(放牧地面積)   | 分娩間隔  | 初産月齢 | 出荷月齢 | 出荷時体重               | 作付体系及び単収 | 作付延べ面積※放牧利用を含む | 外部化(種類) | 購入国産飼料(種類) | 飼料自給率(国産飼料) | 粗飼料給与率 | 経営内堆肥利用割合 | 生産コスト           | 労働         |                         | 経営          |             |           |           |
| 子牛1頭当たり費用合計(現状平均規模との比較) | 子牛1頭当たり飼養労働時間 | 総労働時間(主たる従事者の労働時間) | 粗収入        | 経営費      | 農業所得 | 主たる従事者1人当たり所得 |       |      |      |                     |          |                |         |            |             |        |           |                 |            |                         |             |             |           |           |
| 肉専用種繁殖経営                | 家族            | 70                 | 牛房群飼連動システム | 公共牧場ヘルパー | 分離給与 | 10.0          | 12.5  | 24.0 | 8.0  | kg<br>去勢253<br>雌235 | kg<br>混播 | ha<br>33       | 個別      | -          | 93          | 95     | 10        | 円(%)<br>399,810 | hr<br>57.7 | hr<br>3,8800<br>(1,700) | 万円<br>3,800 | 万円<br>2,960 | 万円<br>840 | 万円<br>630 |

(2) 肉専用種肥育経営

| 方式名<br>(特徴となる取組の概要) | 経営概要 |      |      |      |                     |                       | 生産性指標                 |                     |                    |          |                |         |            |             |        |           |                 |              |                         |              |              |             | 備考        |
|---------------------|------|------|------|------|---------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|--------------------|----------|----------------|---------|------------|-------------|--------|-----------|-----------------|--------------|-------------------------|--------------|--------------|-------------|-----------|
|                     | 経営形態 | 飼養形態 |      |      | 牛                   |                       |                       |                     | 飼料                 |          |                |         |            |             | 人      |           |                 |              |                         |              |              |             |           |
|                     |      | 飼養頭数 | 飼養方式 | 給与方式 | 肥育開始時月齢             | 出荷月齢                  | 肥育期間                  | 出荷時体重               | 1日当たり増体量           | 作付体系及び単収 | 作付延べ面積※放牧利用を含む | 外部化(種類) | 購入国産飼料(種類) | 飼料自給率(国産飼料) | 粗飼料給与率 | 経営内堆肥利用割合 | 生産コスト           | 牛1頭当たり飼養労働時間 | 総労働時間(主たる従事者の労働時間)      | 粗収入          | 経営費          | 農業所得        |           |
| 肉専用種一貫経営            | 法人   | 700  | 牛房群飼 | 分離給与 | ヶ月<br>去勢8.0<br>雌8.0 | ヶ月<br>去勢26.0<br>雌27.0 | ヶ月<br>去勢18.0<br>雌19.0 | kg<br>去勢750<br>雌660 | kg<br>0.91<br>0.77 | kg<br>混播 | ha<br>36       | -       | -          | 29          | 26     | 5         | 円(%)<br>880,130 | hr<br>10.9   | hr<br>7,6300<br>(1,800) | 万円<br>30,540 | 万円<br>29,040 | 万円<br>1,500 | 万円<br>710 |

(注) 1. 繁殖部門との一貫経営を設定する場合には、肉専用種繁殖経営の指標を参考に必要な項目を追加すること。

2. 「肥育牛1頭当たりの費用合計」には、もと畜費は含めないものとする。

(3) 乳用種等肥育経営

| 方式名<br>(特徴となる取組の概要)      | 経営概要         |                    |      | 生産性指標 |                              |                                |                                |                              |                                |          |                |         |            |             |         |           |                 |            |                         |              | 備考           |             |           |
|--------------------------|--------------|--------------------|------|-------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------|----------|----------------|---------|------------|-------------|---------|-----------|-----------------|------------|-------------------------|--------------|--------------|-------------|-----------|
|                          | 経営形態         | 飼養形態               |      |       | 牛                            |                                |                                |                              |                                | 飼料       |                |         |            |             |         |           | 人               |            |                         |              |              |             |           |
|                          |              | 飼養頭数               | 飼養方式 | 給与方式  | 肥育開始時月齢                      | 出荷月齢                           | 肥育期間                           | 出荷時体重                        | 1日当たり増体量                       | 作付体系及び単収 | 作付延べ面積※放牧利用を含む | 外部化(種類) | 購入国産飼料(種類) | 飼料自給率(国産飼料) | 粗飼料給与率  | 経営内堆肥利用割合 | 生産コスト           | 労働         |                         | 経営           |              |             |           |
| 肥育牛1頭当たり費用合計(現状平均規模との比較) | 牛1頭当たり飼養労働時間 | 総労働時間(主たる従事者の労働時間) | 粗収入  | 経営費   | 農業所得                         | 主たる従事者1人当たり所得                  | 円(%)                           | hr                           | hr                             | 万円       | 万円             | 万円      | 万円         |             |         |           |                 |            |                         |              |              |             |           |
| 乳用種一貫経営                  | 法人           | 頭                  | 牛房群飼 | 分離給与  | ヶ月<br>乳雄<br>6.0<br>交雄<br>7.0 | ヶ月<br>乳雄<br>19.0<br>交雄<br>24.0 | ヶ月<br>乳雄<br>13.0<br>交雄<br>17.0 | kg<br>乳雄<br>775<br>交雄<br>800 | kg<br>乳雄<br>1.21<br>交雄<br>1.04 | kg<br>混播 | ha<br>22       | -       | -          | %<br>32     | %<br>23 | 割<br>3    | 円(%)<br>388,500 | hr<br>10.0 | hr<br>9,9500<br>(1,800) | 万円<br>23,740 | 万円<br>22,530 | 万円<br>1,210 | 万円<br>420 |

IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項

1 乳牛

(1) 飼養構造

| 地区域名 |    | ①総農家戸数  | ②飼養農家戸数 | ②/①      | 乳牛頭数     |          | 1戸当たり平均飼養頭数<br>③/② |
|------|----|---------|---------|----------|----------|----------|--------------------|
|      |    |         |         |          | ③総数      | ④うち成牛頭数  |                    |
| 登別市  | 現在 | 戸<br>40 | 戸<br>9  | %<br>23% | 頭<br>545 | 頭<br>344 | 頭<br>60.6          |
|      | 目標 |         | 戸<br>8  |          | 頭<br>485 | 頭<br>261 | 頭<br>60.6          |

(注) 「飼養農家戸数」欄の( )には、子畜のみを飼育している農家の戸数を内数で記入する。

(2) 飼養規模の拡大のための取組

①規模拡大のための取組

ゆとりある経営を確立するために、コントラクターや酪農ヘルパーを活用した飼養管理労働の省力化と乳検情報、飼養管理技術の改善による低コスト化を進めるとともに、経営面積や労働力と調和した合理的な生産方式の導入を推進する。あわせて、計画的な草地造成整備により飼料生産性向上と農用地の利用集積など土地資源有効活用を図ることにより、飼料基盤に立脚した資源循環型農業を構築する。

生乳の品質については、乳脂肪分や無脂乳固形分などの成分的乳質とともに生菌数、体細胞数で表される衛生的乳質の重要性が増してきており、乳質向上に対する取組は怠ることができない重点課題でとなっている。このような状況の中、登別市で生産される生乳の衛生的乳質は全道トップクラスを維持しており、室蘭登別酪農振興協議会が行っている乳質改善事業に対しては今後とも農協や共済など関係団体との協働のもとに取組を進めていく。

②規模拡大は困難だが経営規模を維持するための取組

諸条件により規模拡大が困難な場合においても、コントラクターや酪農ヘルパーを活用した飼養管理労働の省力化や飼養管理技術の改善による低コスト化を進めるとともに、良質な自給飼料の生産性向上により、1頭当たりの乳量を確保しつつ乳質の向上を目指すことで一定の所得を確保しながら収益性の高い経営を構築する。

2 肉用牛  
(1) 飼養構造

|             | 地域名 | ①<br>総農家数 | ②<br>飼養農家<br>戸数 | ②/①        | 肉用牛飼養頭数 |       |       |     |       |      |       |       |    |
|-------------|-----|-----------|-----------------|------------|---------|-------|-------|-----|-------|------|-------|-------|----|
|             |     |           |                 |            | 総数      | 肉専用種  |       |     |       | 乳用種等 |       |       |    |
|             |     |           |                 |            |         | 計     | 繁殖雌牛  | 肥育牛 | その他   | 計    | 乳用種   | 交雑種   |    |
| 頭           | 頭   | 頭         | 頭               | 頭          | 頭       | 頭     | 頭     | 頭   | 頭     | 頭    | 頭     |       |    |
| 肉専用種繁殖経営    | 登別市 | 現在        | 40              | 5<br>( 3 ) | 13%     | 329   | 326   | 226 | 100   |      | 3     |       | 3  |
|             |     | 目標        | /               | 6<br>( 2 ) | /       | 561   | 553   | 348 | 205   |      | 8     |       | 8  |
| 肉専用種肥育経営    | 登別市 | 現在        | 40              | 1<br>( )   | 3%      | 425   | 425   |     | 425   |      | 0     |       |    |
|             |     | 目標        | /               | 1<br>( )   | /       | 871   | 871   |     | 871   |      | 0     |       |    |
| 肉専用種一貫経営    | 登別市 | 現在        | 40              | 1<br>( )   | 3%      | 682   | 682   | 150 | 530   | 2    | 0     |       |    |
|             |     | 目標        | /               | 1<br>( )   | /       | 1,318 | 1,318 | 231 | 1,085 | 2    | 0     |       |    |
| 乳用種・交雑種肥育経営 | 登別市 | 現在        | 40              | 2<br>( )   | 5%      | 1,034 | 5     | 2   | 2     | 1    | 1,029 | 995   | 34 |
|             |     | 目標        | /               | 2<br>( )   | /       | 1,227 | 7     | 3   | 4     | 0    | 1,220 | 1,130 | 90 |

(注) ( ) 内には、一貫経営に係る分(肉専用種繁殖経営、乳用種・交雑種育成経営との複合経営)について内数を記入すること。

(2) 飼養規模の拡大のための取組

肉用牛経営における生産性の向上とコスト削減のために、コントラクター設立への取組を進めるが、当面は農業機械共同利用と共同作業による省力化を図るとともに、計画的な草地更新により飼料生産性向上と農用地の利用集積など土地資源有効活用を図ることにより、飼料基盤に立脚した資源循環型農業を構築する。

1) 肉専用種繁殖経営

繁殖経営は、その生産構造(1年1産など)から収益性の上がりにくい経営としての側面がある。繁殖雌牛では分娩間隔と子牛生産率(受胎率:受胎頭数/授精頭数)が重要であり生産コストと収益性に大きく影響を与え、又生産コストの低減という視点から見た場合、繁殖牛の初産月齢の短縮が必要かつ有効であり、さらには、長命で連産性のある繁殖牛の飼養が不可欠となる。これらのためには、十分な運動が必要で放牧飼養方式の導入が有効な管理方式といわれ、農用地の利用集積などにより土地資源有効活用のもと、良質自給飼料の生産を拡大し、飼料自給率の向上を図る。

2) 肉専用種肥育経営

育種改良や肥育技術の向上により、肉質の斉一性と肉量の確保を図り、安定した経営を確立するとともに、学校給食の食材として提供するなど地産地消の取組や地域ブランドとしての取組などを目指す。

3) 乳用種・交雑種育成経営

酪農経営から供給される乳用雄仔牛や交雑種の適正な飼養管理による疾病予防対策を進め、安定的な酪農経営を確立する。また、家畜ふん尿の堆肥化による資源の有効活用を図り生産コストの低減と資源循環型農業の確立を目指す。

4) 乳用種・交雑種肥育経営

乳用種や交雑種は酪農の副産物として供給されており、特に乳用種は輸入牛肉との競合がさらに厳しくなることが予想されることから、生産性の高い大規模専業経営を育成しスケールメリットによる省力化と効率的な生産を推進する。また、ほ場副産物の有効活用と堆肥の還元による生産コストの低減を図るとともに資源循環型農業の確立を目指す。

## V 国産飼料基盤の強化に関する事項

### 1 飼料の自給率の向上

|             |     | 現在（平成30年度） | 目標（令和12年度） |
|-------------|-----|------------|------------|
| 飼料自給率       | 乳用牛 | 80%        | 84%        |
|             | 肉用牛 | 32%        | 44%        |
|             | 牛合計 | 44%        | 49%        |
| 飼料作物の作付延べ面積 |     | 789ha      | 868ha      |

### 2 具体的措置

- ・農地利用集積と団地化による飼料作物作付拡大と補助事業などによる計画的な草地更新、青刈りトウモロコシの作付などによる単収の向上を図る。
- ・農業経営の規模拡大と従事者の高齢化が進むなかで草地の適切な肥培管理のためにコントラクターの事業化を推進し自給飼料の確保に努める。
- ・放牧の推進 地域に適した栄養価の高い品種を播種するとともに、未利用農地などを放牧地として活用するなど地域の土地や自然条件、経営形態に適応した放牧技術を取り入れる。また、モデル的な実践事例と放牧経営のためのマニュアル等を作成し情報提供する。
- ・国産稲わらの飼料利用の拡大、道産稲わら利用農家（利用したい農家）の把握に努めるとともに、個々の農家で利用するための要件が異なる事からそれぞれの課題を明確にし、稲わら利用の可能性を探る。
- ・農業が持続的に発展するには農業生産の基礎的資源である農地の維持・確保が必要であることから、高齢農家や副業的農家の遊休農地は、担い手農家へ利用 集積されるよう流動化を進めるとともに、農業生産基盤整備事業により農地の団地化を図り飼料作物の効率的生産を推進する。
- ・土壌、植生の実情を勘案し、各種補助事業を活用しながら草地整備、草地改良及び草地更新を実施する。

VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

1 集送乳の合理化

集送乳については、生乳生産の流動化（生産調整等）への的確な対応が不可欠となる。具体的には集送乳の量や距離、時間等を勘案し最も合理的な集送乳路線について、随時、関係者と協議し集送乳コストの低減を図る。

生乳生産現場においては、高品質な生乳を出荷するためにバルククーラやパイプラインミルクカーを始めとした搾乳機器類や作業手順などの点検を不断に行う。

2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

(1) 肉用牛(肥育牛)の出荷先

| 区域名 | 区分   | 現在（平成30年度） |                   |      |     |     |     | 目標（令和12年度） |                   |      |     |     |     |
|-----|------|------------|-------------------|------|-----|-----|-----|------------|-------------------|------|-----|-----|-----|
|     |      | 出荷頭数<br>①  | 出荷先               |      |     |     | ②/① | 出荷頭数<br>①  | 出荷先               |      |     |     | ②/① |
|     |      |            | 道内                |      |     | 道外  |     |            | 道内                |      |     | 道外  |     |
|     |      |            | 食肉処理<br>加工施設<br>② | 家畜市場 | その他 |     |     |            | 食肉処理<br>加工施設<br>② | 家畜市場 | その他 |     |     |
| 登別市 | 肉専用種 | 400        | 10                | 20   | 40  | 340 | 3%  | 480        | 50                | 30   | 50  | 350 | 10% |
|     | 乳用種  | 415        | 300               | 35   |     | 80  | 72% | 500        | 360               | 50   |     | 90  | 72% |
|     | 交雑種  |            |                   |      |     |     |     |            |                   |      |     |     |     |

(注) 食肉処理加工施設とは、食肉の処理加工を行う施設であって、と畜場法(昭和28年法律第114号)第4条第1項の都道府県知事の許可を受けたものをいう。

(2) 肉用牛の流通の合理化

流通コストの低減のためには、生産農家は農協等との相互連携のもとでの共同運搬によるコスト低減を図る。

また、地場産品の地元消費（地産地消）を確立するために、安定した生産・供給体制と畜産物の高付加価値化を推進し、新鮮で良質、かつ安全な「商品」開発を目指す。

VII その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

(1) 担い手の育成と労働負担の軽減のための措置

担い手の育成については、地域担い手センターとして定めた登別地域担い手育成総合支援協議会及びその他の関係機関・団体との連携のもと、経営の合理化を図るため、農業者に関する情報の共有と一貫した指導支援、新規就農者の継続的な営農へ向けて、就農初期段階の地域全体でのサポートを行う。

労働負担の軽減のための措置については、規模拡大を行う場合には、ゆとりある経営を確立するため、資金力・立地条件等に応じて、フリーストール方式等の導入により、飼養管理労働の合理化とコスト低減を勧めるなど、経営面積や労働力等と調和した規模と合理的な生産方式の導入を推進し、大幅な規模拡大を行わない場合には、既設のスタンション方式の有効活用により経営の合理化を進める。

あわせて、機械などの共同利用組織を育成し、自給飼料生産管理作業の共同化・分担化を進め機械の効率利用による低コスト生産を図るとともに、酪農ヘルパー制度を確立させた上での活用や農作業の一部をコントラクター等に請け負わせるなど、労働力不足を補充しその軽減を図る。

(2) その他必要な事項

①家族経営体の維持・発展のための取組

酪農及び肉用牛生産は、1経営体における生産額が取り分け大きく、地域経済・社会の活性化への貢献度合いも大きいことから、生産量をより一層維持・発展させるための取組を推進する。

②新型コロナウイルス感染症等を踏まえた業務継続に向けた取組

酪農・畜産業及びこれらの関連産業は、食料の安定供給に重要な役割を担っていることを踏まえ、新型コロナウイルス感染症等に対する予防対策の徹底はもとより、万が一、感染者が発生した場合においても、優先的に実施する業務の継続が可能となるよう、生産者や生産団体、流通事業者、飼料製造業者等の連携による体制の構築を推進する。

③需要創出に向けた取組

今般の新型コロナウイルス感染症の影響等は、生産基盤の維持・発展を図るためにも、需要あつての生産活動であることが再認識されたことから、安定的な需要が確保されるよう関係者における緊密な連携構築を推進する。

④計画達成に向けた関係機関・団体の役割

本計画に盛り込まれた取組は、北海道、本市、生産者団体、生産者その他の関係者が緊密に連携・協力しつつ、計画的に推進することが重要である。

このことから、北海道とともに、本計画の具体的な実施の方針、進め方、関係者それぞれの役割を明確にし、取組の効果的かつ確実な実施を図る。